

令和4・5年度
山形大学農学部鶴窓会庄内支部通常総会

日 時 令和5年3月19日

15時～

会 場 鶴岡市「月山荘」

次 第

1. 開 会

2. 挨 捂 支部長 芳賀修一

3. 祝 辞 鶴窓会会长 菅原幸司 氏

4. 議長選任

5. 議 事

第1号議案 令和2・3年度事業報告及び収支決算の承認について
(監査報告)

第2号議案 令和4・5年度事業計画(案)及び収支予算(案)の決定について

第3号議案 役員の改選(案)について

6. 閉 会

7. 事例報告

(1) 有機農業に取り組んで

昭和54年農学科卒・昭和56年農学研究科修了 小野寺喜作 氏

(2) 農業サークル「のらしいのお」の活動について

食料生命環境学科アグリサイエンスコース2年 のらしいのお代表 佐藤萌々香 氏

食料生命環境学科エコサイエンスコース3年 杉山智陽 氏

8. 懇親会・記念撮影

令和4・5年度鶴窓会庄内支部総会出席者名簿

No	氏名	参加	所在	卒業年	備考
1	佐久間 憲生	会議・懇親会	鶴岡市	S45農	
2	成沢 辰巳	会議・懇親会	鶴岡市	S45農	
3	芳賀 修一	会議・懇親会	三川町	S46農	
4	栗田 公司	会議・懇親会	酒田市	S47農	
5	阿部 重彰	会議・懇親会	酒田市	S48農	
6	大川 元弥	会議・懇親会	酒田市	S49農	
7	菅原 幸司	会議・懇親会	鶴岡市	S49農化	
8	安藤 一雄	会議・懇親会	庄内町	S53修	S51農
9	関口 正則	会議・懇親会	鶴岡市	S53修	S51農工
10	高橋 孝悦	会議・懇親会	鶴岡市	S54修	S52林
11	佐藤 淑	会議・懇親会	庄内町	H13修	H11農生
12	石黒 清一	総会のみ	鶴岡市	S44農	
13	阿部 敏明	総会のみ	庄内町	S50農化	
14	長谷川 篤夫	総会のみ	鶴岡市	S54農	
15	木村 充	総会のみ	福島市	H8環境	
16	遠藤 文子	総会のみ	鶴岡市	H21修	
17	小野寺 喜作	会議・懇親会	鶴岡市	S56修	S54農、事例報告者
18	佐藤 萌々香	会議・懇親会	鶴岡市	学部2年	食料生命環境学科 アグリサイエンスコース 事例報告者
19	杉山 智陽	会議・懇親会	鶴岡市	学部3年	食料生命環境学科 エコサイエンスコース 事例報告者
	計19名				

第1号議案

令和2年度・3年度事業報告及び収支決算の承認について

1.事業報告

- (1) 令和2年5月12日 農学部学生への無償米の支援要請 51名へ
- (2) 令和2年7月25日 支部三役会議、会場、庄内町和心 5名参加
- (3) 令和2年8月下旬 庄内支部会員名簿の整理
- (4) 令和2年10月1日 令和2・3年度庄内支部総会、役員の書面決議(19名)
- (5) 令和2年10月18日 令和2・3年度庄内支部総会書面決議の報告(ハガキ送付)
- (6) 令和3年7月 支部三役会議、新型コロナウィルス感染症で中止
- (7) 令和4年2月 第5回庄内農業を語る会 コロナ禍で中止

2.収支決算書(令和2年4月1日～令和4年3月31日)

(1) 収入の部

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
鶴窓会支部助成金	40,866	36,918	△ 3,948	学生支援米要請送料4,284円 書面決議送料1,512円 R2・3年度総会報告ハガキ代31,122円
鶴窓会お祝い金	0	0	0	鶴窓会本部より
総会参加費	0	0	0	書面決議のためなし
雑収入	1,002	0	△ 1,002	
繰越金	58,132	58,132	0	前年度より
合計	100,000	95,050	△ 4,950	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
名簿作成費	0	0	0	
総会案内ハガキ代・印刷代	40,866	31,122	△ 9,744	R2・3年度総会報告ハガキ代31,122円
資料コピー印刷代	5,000	0	△ 5,000	
総会・会議費	10,000	5,000	△ 5,000	総会は書面決議のためなし 支部三役会R2.9.16 5,000円
写真代・通信費	0	8,232	8,232	学生支援米要請送料4,284円 書面決議送料1,512円 幹事、代議員留任依頼書送料 幹事756円、代議員1,680円
事務費・予備費	44,134	3,668	△ 40,466	ラベルシール12面547円、長3封筒943円 コピー用紙327円、プリンターアイク、1,848円 レジ袋3円
合計	100,000	48,022	△ 51,978	

収入合計 95,050円 - 支出合計 48,022円=47,028円の残

次年度へ繰り越し

監査報告書

令和2年度・3年度鶴窓会庄内支部の会計について、監査を実施しましたのでその結果を次のとおり報告します。

記

1 監査期日 令和5年3月16日

2 監査内容 (1) 収支決算

(2) 関係帳簿及び証拠書類

3 監査意見

各出納事務全般について監査した結果、収入支出とともに諸帳簿及び証拠書類と照合して正当と認める。

令和5年3月16日

監事 菅原 良和 

監事 藤糸 邦海 

山形大学農学部鶴窓会庄内支部

支部長 芳賀 修一 殿

第2号議案

令和4・5年度事業計画（案）及び収支予算（案）の決定について

1.事業計画（案）

- (1) 令和5年1月4日 支部三役会議(支部長、副支部長、幹事長)、三川町、COCO's
- (2) 令和5年3月19日 令和4・5年度通常総会 会場:月山荘
- (3) 令和5年7月下旬 支部三役会議（支部長、副支部長、幹事長）
- (4) 令和6年2月上旬 第5回 庄内農業を語る会の開催

2.収支予算（案）

（1）収入の部

項目	令和2・3年度	令和4・5年度	比較増減	摘要
鶴窓会支部助成金	40,866	34,000	△ 6,866	5年度、一般会費納入額(170,000円)×0.2
鶴窓会お祝い金	0	10,000	10,000	鶴窓会本部より
総会参加費	0	60,000	60,000	会費 11人×5,000円、5人×1,000円
雑収入	1,002	972	△ 30	
繰越金	58,132	47,028	△ 11,104	前年度より
合 計	100,000	152,000	52,000	

（2）支出の部

項目	令和2・3年度	令和4・5年度	比較増減	摘要
名簿作成費	0	0	0	
総会案内ハガキ代・印刷代	40,866	0	△ 40,866	本部会計負担
資料コピー印刷代	5,000	5,000	0	
総会・会議費	10,000	100,000	90,000	総会懇親会費、講師謝礼、役員会
写真代・通信費	0	10,000	10,000	
事務費・予備費	44,134	37,000	△ 7,134	コピー用紙、タッグシール等
合 計	100,000	152,000	52,000	

収支差し引き 0 円

第3号議案

役員の改選について(案)

◇任期:令和4年4月1日～令和6年3月31日

役 職	氏 名	卒年.学科	備 考
顧 問	阿部 重彰	S48. 農	
	高橋 敏能	S45. 農	
支 部 長	芳賀 修一	S46. 農	
副支部長	富樫 一幸	S57. 農	
	菅原 良和	S52. 農	新
監 事	藤科 智海	S63. 農 H2. 修	
	押井 秀勝	S62. 園	新
幹 事 長	安藤 一雄	S51. 農 S53. 修	
幹 事	菅原 幸司	S49. 農化	
	阿部 敏明	S50. 農化	
	長谷川篤夫	S54. 農	
	松坂 茂也	S58. 農	
	加来 伸夫	H4. 農化 H6. 修	
	松山 裕城	H10. 生 H12. 修	
	佐藤 淑	H11.生 H13. 修	
	遠藤 文子	H21. 環修	

事務局 三川町土口字村中 121 支部長 芳賀修一 宅内
電話 0235-66-2012

山形大学農学部 鶴窓会庄内支部規約

(名 称)

第1条 本支部は山形大学農学部鶴窓会庄内支部と称し、事務局は支部長宅内に置くものとする。

(目 的)

第2条 本支部は会員相互の連携と親睦を図ることを目的とする。

(会 員)

第3条 本支部は山形県立農林専門学校及び山形大学農学部卒業生、農学専攻科・大学院修了生で、庄内地域に居住する者並びに庄内地域に職を有する者をもつて会員とする。

(役 員)

第4条 会員の互選により、次の役員を置き任期は二年とする。但し、再任は妨げない。
顧問 若干名、 支部長 1名、 副支部長 2名、
監事 2名、 幹事長 1名、 幹事 若干名

(事 業)

第5条 本支部の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 総会・交流会、 2. その他

(会 議)

第6条 本支部の会議は総会と役員会とし、総会は原則として年1回・役員会は必要に応じて開催する。但し、支部長が認めた場合は臨時総会を開くことが出来る。

(会 計)

第7条 本支部の運営費は、会費とその他をもってあてる。

(会計期間)

第8条 本支部の会計期間は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

附 則 昭和60年10月12日 制定
平成10年10月20日 一部改定
平成13年 8月25日 一部改定
平成18年 7月 9日 一部改定
令和 2年10月10日 一部改定

※ 第8条、付則のアンダーライン部分を追加挿入する。

鶴窓会庄内支部 令和4・5年度総会記念 事例報告

令和5年3月19日

『有機農業に取り組んで』 小野寺 喜作 氏

『農業サークル「のらしいの」の活動について』
農学部生2年 佐藤 萌々香 氏
農学部生3年 杉山 智陽 氏

シリーズ第1回 「庄内の農業を語る」

有機農業に取り組んで

小野寺 喜作さん（昭和54年農学科卒
昭和56年農学研究科終了）



インタビュー

農業サークル
「のらしいのお」
メンバー

佐藤 茗々香
中原 萌
三浦 果歩
(農学部2年)

佐藤 小野寺さんの方から自己紹介お願いします。

小野寺 1955年の6月

に宮城県の仙台市で農家の長男として生まれて、山大に入つて、卒業後すぐ農業を始めた。「庄内協同ファーム」という芳賀さんのところのメンバーの人と学生の時は知り合いになつた。何年か後にうちの母ちゃん（奥様）の子供のサークルの中で、

「安全な野菜がほしい」という声から、「食べ物を考える野菜の会」も87年に作つた。

農業は、最初は慣行栽培だったけど、協同ファームの関係で勉強する中で自分も農薬を使いたくない、とう思いになつた。2000年から有機のJAS認証が始まつて、日本でも早い段階から協同ファームで認証に取り組んでいたな。段々面積

を増やして、2007年に全部有機栽培に切り替えて今に至る。

農家レストランは2000年のころに家を増改築して、農家民宿の許可もとつて始めたのがスタート。当初の農家レストランは、今の「農」

というゲストハウスで始めた。

佐藤 いろんな活動に至った経緯や、小野寺さんのかで問題意識や関心などがあればお聞きしたいです。

あとは、うちの母ちゃん

が湾岸戦争の時期に卵巣ガンが見つかって。病気になる前も健康、自然療法的なものに関心あつたんだけど、ときに、少量多品目で規模拡大とかではなく、より豊かな生活、農業をやりたいと

いう思考はあつた。もう一つは子供たちがいる中でどうやつたらお金のかからない子育てができるか。それに食べ物が大事だし、ましてや田んぼ畑があるから、それを最大限利用する形だつた。

佐藤 当時の農業や、生産の状況も踏まえて、そうでない方が良いなという思いで活動してたところが大きいんですか？

佐藤 自分たちで食べ物を生産して、料理して食べるところまでを行う感じですか？

小野寺 そうそう。だから子どもは畠の戦力？労働力？みたいな感じ。鶏小屋があつたから、卵を取つて拭いたりするのが子どもた



農家レストラン「葉あ」前景



農家レストラン「葉あ」内観

小野寺 うん。そして野菜を通じていろんな交流会、（協同ファームの）勉強会、自給的な暮らしや添加物の怖さ、危険性の勉強会もしていたからな。でも今考えると、30年も前にそういうことやっていたんだと思うよ。（笑）

佐藤 結構時代を先取りしているというか。

小野寺 ね。今考えるとなあと民宿をやるきっかけになつたのは、山大が近かつた。後輩も手伝いに呼んだりアルバイトに来てもらつたりも結構頻繁にあつた。いろんな研修生も受け入れしていたので、能力的にも私たちも必要だつたし。あと、やっぱり農薬を使わないっていう取り組みが、まだ珍しかつたのでそういうのに関心がある人が多かつた。

佐藤 現在のお仕事は、農作業や民宿が中心なんですか？
小野寺 他には鶴岡市の有機の認証機関、その検査員はやつてある。有機や特栽（特別栽培）の検査員を9年くらいやつてるかなあ。

佐藤 小野寺さん自身が感じるのは庄内の農業や将来について、何か考えがあればお伺いしたいです。

三浦 薬を使つた農業だと安定的に生産できるというか。有機農業で、ちょっと大変だけどずっと長く続けられる体制を作るよりも、その年に収入が得られるかと

（まとめる）町内会長と、有機の検査員と、保育園と、あとSEADSの研修生も受け入れしている。

中原 今は評価されていないなど感じるところがあるんですか。

小野寺 農薬を使わなかつたら意味がないという農協や農家、消費者の考え方がある。

三浦 薬を使つた農業だと安定的に生産できるというか。有機農業で、ちょっと大変だけどずっと長く続けられる体制を作るよりも、その年に収入が得られるかと

（まとめる）JASとかに取り組んでいたから頼まれたのですか？

小野寺 頼まれたし、俺自分が検査員とも対等にいろいろやり取りが出来るかと思つて。言われっぱなしとか言いなりになる必要は無いななど思つての。

中原 今は評価されていないなど感じるところがあるんですか。

小野寺 農薬を使わなかつたら意味がないという農協や農家、消費者の考え方がある。



インタビューの様子



有機農業のジャケット

小野寺 鶴岡市が食文化創造都市やJASの認証機関。国の政策も世界的にも環境負荷の少ないものが求められているが、なかなか進まない。なぜかと思つたときに、戦後の農業基本法の中で、化学肥料や農薬を使うことが前提の指導員や農協での体制、農家も思い込まされてきたことが抜けないのが一番のネック。庄内の自然環境 자체は良いと思うけど、それをみんなが理解して、より良くする働きかけが非常に大事だし、大事にする人を評価するようにならなければいいなと思うの。

佐藤 最後に、農家の立場として今の学生に感じることがあればお願ひします。

佐藤 我々の側からするとみんな真面目だな。いいんだか悪いんだかわからないけど（笑）

でも関心のあることに向かって、自分で切り開いていく方がむしろ大事な気がするな。先生の言つていることが絶対正しいわけではな

いので。それよりは何が良いのか自分の頭の中で考えて行動を起こすことの方が大事かな。

我々の時は三里塚（成田空港の農民運動）とかあつたし、学部長に寮のことを

か、目先を優先しているのかなという印象は受けていますね。

小野寺 考えてみると有机農業の方が収穫はともかく、安定はしていると思うし、土づくりも無理がないし、虫とか病気もどんどん少なくなっているのは実感するの。

佐藤 そうしたこととはすごくなり作物が順調に育つと、虫とか病気もどんどん少なくなっている。でも対等な立場で意見を話すことはすごく大事だなと感じますね。

佐藤 貴重なお話を伺うこと

が出来ました。本日はありがとうございました。

全員 ありがとうございました。

佐藤 ありがとうございました。

中原 ありがとうございます。

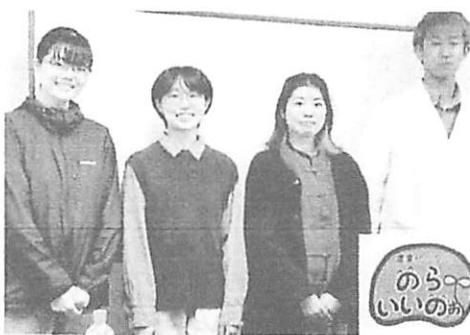
佐藤 ありがとうございました。

学生会員の活躍

農業サークル「のらしいのお」

佐藤 萌々香

(食料生命環境学科
アグリサイエンスコース2年)



鶴窓会だよりをご覧の皆

さん、こんには。山形大学農学部の農業サークル「のらしいのお」の会長を務めます、アグリサイエンスコース2年の佐藤萌々香です。

農業サークル「のらしいのお」は、今年の4月に発足したボ

ランティアサークルです。庄内地域を対象とし、農業支援や地域づくりに関わる活動を展望に置きながら現在6人のメンバーで活動しています。

皆さんは農学部で学ぶ(学んでいた)間、このようなことを考えたことはありましたか? 「周りで、農業の話をす

る関心を持つ人が少ないな」「机上だけでなく、実際の農業に触れる学びを行いたい

など。あるある! と思った方もあるのではないでしょうか。実はサークル立ち上げのメンバーには、このような思いを

持つた人達がいました。そこで、農家さんと学生がつながり、学生が農業の現場を知りながら、今の農業について真剣に向き合える場を作りたい、という思いを形にしたのが「のらしいのお」の発足経緯です。

そのもとで「学生と農家の架け橋から、協働の地域づ



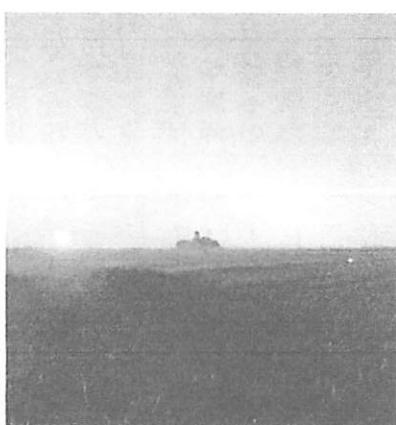
SEADSさんに訪問した際の様子

でもあります。学生だけではなく第三者が関わる「のらしいのお」における学生の活動する姿勢や、農家さんを取り巻く農業問題について、メンバー自身が深く考えさせられる活動となりました。

これまでではサークルの準備段階として、農家さんのつながりを作るための活動をしてきました。これからはそこで学びを踏まえ、サークルとして本格的に活動を形にしていく段階に入っています。

くりへ」をコンセプトに、これまで教授訪問や農家さんとの交流など、様々な活動を行ってきました。

中でも特に農家さんとの交流は、サークルにとって大きな刺激となっています。講義で学んだ知識が現場を通して実感としてつながったり、農家さんのお話から今の農業への問題意識や、その中で農家さんが農学部生に期待することを知つたりしてきました。これらは、大学から飛び出し、実際に農業の現場を立つた活動として形にしていこうと考えています。



庄内の田園風景

それにあたり、「のらしいのお」の活動に興味がある、何かの形で関わりたい、という方がいらっしゃれば、ぜひお声をかけていただければと思います。農業関係の方はもちろん、学生メンバーも募集中です。お話を聞くだけでも嬉しいですし、その中で、農学部や庄内地域の農業・

農家さんにとって、より良い方向を一緒に見つけることができれば幸いです。

最後になりましたが、まだ成長途中有る「のらしいのお」を今後ともよろしくお願いいたします。